



トビアス・ストーリー (6) 帰還

トビアスはサラの父から全財産の半分を贈られました。そして、両親のもとへと帰る日がやってきました。岳父ラグエルは言います。「愛する子トビアス、主の導きであなたが無事家に戻れますように。わたしがまだ元気なうちに、あなたがたの子供たちに会いたいものです。今、主の御前で娘をあなたにゆだねます。あなたは一生、娘を悲しませないでください。さようなら、我が子よ」

故郷の町に近づいた時、アザリアはトビアスにサラを迎える準備をするために一足早く帰宅するように促します。そして、父トビトの目に魚の胆のうを塗ると目がまた見えるようになると励まします。二人は先を急ぎました。トビアスの犬も二人の後からついて行きました。

息子を待って、日毎、道を眺めていた母ハンナは、トビアスを見つけて走り寄り、首に抱きつき、「息子よ、また会えてよかった。もう思い残すことはありません」と言って、声をあげて泣きました。よろよろと戸口に出てきたトビトを、トビアスは抱きしめて、「お父さん、心配にはおよびません」と言いながら、すぐに目の手当てをしてあげました。再び目が見えるようになったトビトはトビアスの首に抱きつき、声をあげて泣きながら言いました。「お前が見える。わたしの目の光である我が子が見える。」



Jan Massys (c.1510 – 1575)

トビトは神をほめたたえます。彼は、盲目になるという試練によって、神に鞭打たれ、苦しみましたが、忍耐し、待って、幸いを得たのです。

トビアスは「私の旅は成功でした。お金も持って帰れましたし、ラグエルの娘サラを妻としてめとることもできました」と大喜びで報告できました。

さて、案内人となってトビアスを守り、導いたアザリアにトビアスは感謝してもし切れないほどでした。報酬として持ち帰った財産の半分を支払ってもよいと父トビトに伝えます。するとトビトも「当然だ」と賛成します。アザリアは父と子の二人を呼び寄せ、「わたしは、栄光に輝く主の御前に仕えている七人の天使の一人、ラファエルである」と本来の姿を示します。トビトとトビアスは驚いてひれ伏し

恐れおののきます。ラファエルは「あなたが祈り、サラが祈ったとき、その祈りが聞き届けられるように、主にとりなしをしたのは、誰であろうわたしだったのだ」と伝えます。

トビトは主を賛美し、感謝を捧げることを忘れませんでした。息子トビアスに、不正のはびこるニネベを去り、新しい出発をするようにと勧め、安らかに息を引き取りました。トビアスはサラの両親をもねんごろに世話し、両家を継いでいったのです。